わん丸君バス再編案のうち運賃及び料金に関する事項

1. 見直しの概要

1)中学生の運賃区分の見直し

前回再編時に中学生の登下校対応として朝便を導入しています。中学生の運賃は、現行では大人と同じ運賃(1日200円)ですが、通学にあたる金銭的な負担を解消するため、小学生と同じ義務教育期間と捉え、小学生と同じ運賃(1日100円)に見直します。

2)回数券の券面金額・販売単位の変更

中学生の運賃区分見直しに伴い、運賃 100 円の対象者の増加が見込まれることから、回数券の種類について、現在の「200 円券 11 枚綴り」に加え、「100 円券 11 枚綴り」を追加します。

3)85歳以上・小学生パス券の対象年齢の変更

運転免許証の自主返納にかかる心理的負担を軽減し、公共交通を利用した暮らしへの移 行を促進するため、85歳以上パスの対象年齢を75歳へ引き下げます。

また、中学生の運賃区分が小学生と同様の扱いとなったため、小学生パス券を小中学生パス券へと変更します。

2. 各見直しの内容

1)中学生の運賃区分の見直し

(1)検討の背景

前回の路線再編により朝便が導入され、中学生が通学に利用するようになりました。 小中学校は同じ義務教育期間であることから、同じ運賃区分に統一し、中学生の通学におけ る運賃負担を軽減するため、中学生の運賃を見直します。

(2)見直し内容

現状見直し案1日大人 200 円、小学生 100 円1日大人 200 円、小中学生 100 円

(3)見直しの影響

現在の利用者データでは「中学生」の現金利用がカウントできていません。そのため、学校の長期休暇に合わせて配布される小中学生を対象とした無料乗車券での乗車人数から、中学生の現金利用での乗車人数を推計し、運賃区分の見直しによる影響を算出しました。

その結果、中学生の運賃区分の見直しによる影響(減収)は46,900円/年となります。

見直しの影響の算出過程			計算式
中学生の無料乗車券利用者数	470 人	А	R6 年度実績
小学生の無料乗車券利用者数	450 人	В	R6 年度実績
小中学生比率	1.0444	С	A/B
小学生の現金利用者数	449 人	D	R6 年度実績
中学生の現金利用者数(推計)	469 人	E	$D \times C$
中学生の現金での運賃収入	93,800円	F	$E \times 200$
見直し後の中学生の現金での運賃収入	46,900 円	G	E×100
中学生の運賃区分の見直しによる影響	-46,900円	Н	G-F

2)回数券の券面金額・販売単位の変更

(1)検討の背景

中学生の運賃区分の見直しに伴い、100円で乗車できる対象者が増加することから、支払いやすさの向上を図るとともに、学校の長期休暇に合わせてパス券と回数券を効率的に購入・利用できるよう100円チケット(回数券)を追加で発行します。

(2)見直し内容

現状見直し案200 円券 11 枚綴り 2,000 円200 円券 11 枚 2,000 円100 円券 11 枚 1,000 円

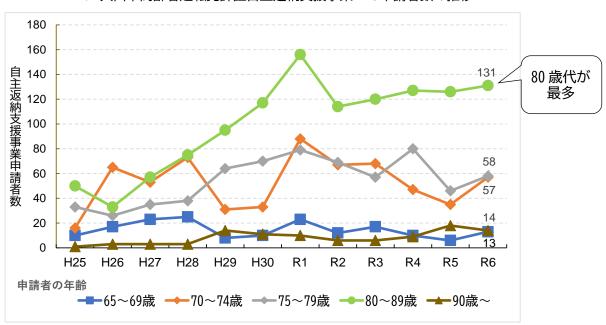
3)85歳以上・小学生パス券の対象年齢の変更

(1)検討の背景

運転免許証を自主返納した後の移動手段を確保することで、自主返納にかかる心理的負担 を軽減し、公共交通を利用した暮らしへの移行を促進するため、85歳以上パス券の対象年齢 を75歳へ引き下げます。

また、中学生の運賃区分が小学生と同様の扱いとなったため、小学生パス券を小中学生パス券へと変更します。

▼ 犬山市高齢者運転免許証自主返納支援事業への申請者数の推移



(2)見直しの内容

現状	6か月	3か月
85 歳以上・ 小学生	6,500円	3,500円
大人	13,000円	7,000円



見直し後	6か月	3か月		
75 歳以上・ 小中学生	6,500円	3,500円		
大人	13,000円	7,000円		

(3)見直しの影響

令和6年のパス券販売実績を基に影響(減収)を推計すると、年間97,500円の負担増となる見込みです。

見直しの影響の算出過程			計算式
75~84 歳のパス券購入額	168,000円	А	R6 年度実績
今回の見直し後のパス券購入額	84,000円	В	A/2
85歳以上パス券の対象年齢引き下げによる影響	-84,000円	С	B-A
中学生のパス券購入額	27,000円	D	R6 年度実績
今回の見直し後のパス券購入額	13,500円	E	D/2
小中学生パス券への変更による影響	-13,500円	F	E-D
合計	-97,500円	G	C + F